

JIS Z 8522 : 2022のうち13の原則による各健康増進関連事業のページに関する評価

1	2	3	4	5	原則	説明	市民評価項目との一致	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	(2)各事業単体の情報提供 > ②ユーザビリティ > スクロールの長さ		
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	(1)網羅的な情報提供 > ②情報へのアクセス > カテゴリ区分名の平易さ		
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	(1)網羅的な情報提供 > ②情報へのアクセス > 階層の深さ		
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なもの順になるようにコンテンツを配置する。	(1)網羅的な情報提供 > ③類似事業間の比較 > 表現の統一性		
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	(1)網羅的な情報提供 > ①全事業の掲載		
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	(1)網羅的な情報提供 > ③類似事業間の比較 > 表現の統一性		
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	(1)網羅的な情報提供 > ③類似事業間の比較 > 類似事業の一覧性		
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さがなくことが望ましい。	(2)各事業単体の情報提供 > ①十分な内容		

6 2 1 6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	該当なし
6 5 2 4 6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	該当なし
6 3 4 4 6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	該当なし
6 4 2 2 6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	(1)網羅的な情報提供 > ②情報へのアクセス > カテゴリ区分
6 5 2 8 6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	該当なし

各健康増進関連事業のページに関する評価

No.	事業名	主管課名
1	スポーツ推進委員事業	文化スポーツ課
2	市町村ポッチャ大会事業	文化スポーツ課
3	市民体育大会事業	文化スポーツ課
4	スポーツレクリエーションフェスティバル事業	文化スポーツ課
5	ちょこっとウォーキング事業	文化スポーツ課
6	ハンドロウル大会事業	文化スポーツ課
7	スポーツスクール事業	文化スポーツ課
8	市町村大会事業	文化スポーツ課
9	スポーツ体験会事業	文化スポーツ課
10	市民プール事業	文化スポーツ課
11	市民グラウンド事業	文化スポーツ課
12	市民の森ふれあいホール事業	文化スポーツ課
13	ウォーキングマップ事業	文化スポーツ課
14	老人クラブ事業	高齢福祉課
15	介護予防・フレイル予防推進事業	高齢福祉課
16	地域介護予防活動支援事業	高齢福祉課
17	介護サポーター事業	高齢福祉課
18	介護予防教室事業	高齢福祉課
19	健康づくり推進員事業	健康課
20	健康体操サポーター事業（楽・楽トレーニング体操ほか）	健康課
21	さわやか健康体操事業	健康課
22	ひのった健康NOTE	健康課
23	高齢者の皆様へ 日々の健康を維持するために	健康課
24	自宅でできる運動のご紹介	健康課
25	自宅でチャレンジ！筋力トレーニング	健康課
26	日野人げんき！体操	健康課
27	介護予防サービス給付	介護保険課
28	介護予防・生活支援サービス事業給付	介護保険課
29	小・中学校スポーツ開放事業	生涯学習課
30	七生丘陵企画展関連行事 新緑の丘陵散策事業	ふるさと文化財課

No.1	スポーツ推進委員事業	1008157
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	4	トップページからの階層・表示されている項目数も7未満に抑えられている。
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なもの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	2	スポーツ推進委員が指導を行っているスポーツ大会等に関して名称が挙げられているものの、当該スポーツ大会等に関する情報がホームページ上では取得できない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	

6 4 3 4 6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6 2 1 6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6 5 2 4 6.5.2.4		ユーザの理解に役立つ冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6 3 4 4 6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6 4 2 2 6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6 5 2 8 6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.2	市町村ポッチャ大会事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6 2 1 6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6 5 2 4 6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6 3 4 4 6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6 4 2 2 6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6 5 2 8 6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用方法に関する指針など）場合がある。	3

No.3	市民体育大会事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	2	◆「市民体育大会」という概念の説明が不足している。 ◆詳細な内容は、日野市体育協会への外部リンク先で提供されている。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	



6	3	4	7	6.3.4.7	大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3
6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.4	スポーツレクリエーションフェスティバル事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用方法に関する指針など）場合がある。	3

No.5	ちよこっとウォーキング事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	2	一部に専門的な用語が解説なく使用されている。【例】ファンクショナルリーチ、パタカ測定
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャック数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャックを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	

6	3	4	7	6.3.4.7	大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3
6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.6	ハンドロウル大会事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用方法に関する指針など）場合がある。	3

No.7	スポーツスクール事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	



6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用方法に関する指針など）場合がある。	3

No.8	市町村大会事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用方法に関する指針など）場合がある。	3

No.9	スポーツ体験会事業	1008767
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	2	一部に専門的な用語が解説なく使用されている。 【例】ユニホック、ドッチビー
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャック数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャックを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	

6	3	4	7	6.3.4.7	大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3
6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.10	市民プール事業	1024059
評価点 (平均)		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価 (日野市HP上の健康増進関連事業 備考)
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャック数は、ユーザが情報を同時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャックを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある (JIS Z 8531-2の5.2.1を参照)。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル (例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス) によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい (例えば、タスクを完了するうえで適切な情報がすべて含まれている。)	3	2023/10/13時点でページが表示されておらず、評価不能。(「市民プールイベント参加者募集 (子ども水泳教室)」ほか、関連するページは別に存在している。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則		ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3	
6	5	2	4	6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3	
6	3	4	4	6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3	
6	4	2	2	6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3	
6	5	2	8	6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報が必要とする (例えば、システムの使用方法に関する指針など) 場合がある。	3	

No.11	市民グラウンド事業	1016445
評価点 (平均)		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価 (日野市HP上の健康増進関連事業 備考)
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャック数は、ユーザが情報を同時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャックを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある (JIS Z 8531-2の5.2.1を参照)。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル (例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス) によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なもの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい (例えば、タスクを完了するうえで適切な情報がすべて含まれている。)	3	2023/10/13時点でページが表示されておらず、評価不能。(「市民プールイベント参加者募集 (子ども水泳教室)」ほか、関連するページは別に存在している。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則		ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。 ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3	
6	5	2	4	6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3	
6	3	4	4	6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3	
6	4	2	2	6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3	
6	5	2	8	6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報が必要とする (例えば、システムの使用方法に関する指針など) 場合がある。	3	

No.12	市民の森ふれあいホール事業	1022844
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	



6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	市ホームページに詳細な内容はなく、外部リンク（ふれあいホール専用の外部WEBページ）が張られている。当該外部リンクを開くと、事業の内容ではなく、ふれあいホールの専用WEBページが展開され、各事業の案内を探さなければならない。	2
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。		3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。		3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。		3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。		3

No.13	ウォーキングマップ事業	1003876
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.14	老人クラブ事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.15	介護予防・フレイル予防推進事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	1	市ホームページ上に内容の説明が存在しない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.16	地域介護予防活動支援事業	1003644
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	2	「地域介護予防活動支援事業」という名称が馴染みのない言葉であるため、市民が参加可能なものであるのか、名称（選択メニューとして表示される）から推測しづらい。
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	



6	3	4	1	6.3.4.1	情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3
6	3	4	7	6.3.4.7	大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3
6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.17	介護サポーター事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	2	制度の全体像に関して、説明が不足している。（対象者、手続方法、事業目的その他）
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	

6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。 ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報が必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.18	介護予防教室事業	1003643
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 （略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.19	健康づくり推進員事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。		健康づくり推進員の携わる業務を市民がどのように利用すれば良いのか、という視点による説明が不足している。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	

6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。 ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.20	健康体操サポーター事業（楽・楽トレーニング体操ほか）	1023141
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	



6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.21	さわやか健康体操事業	1016460
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.22	ひのった健康NOTE
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.23	高齢者の皆様へ 日々の健康を維持するために
評価点（平均）	
	3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.24	自宅で行える運動のご紹介
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	



6 2 1 6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6 5 2 4 6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6 3 4 4 6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6 4 2 2 6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	2
6 5 2 8 6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

複数の体操の動画が紹介されているが、それぞれの体操の概要についての説明文が不足しており、動画を視聴しないと体操の全体像がつかめない。

No.25	自宅でチャレンジ！筋力トレーニング
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.26	日野人げんき！体操	1003874
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 （略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	2	体操の概要に関する説明文が不足しており、動画を視聴しないと全体像が把握できない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	

6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。 ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.27	介護予防サービス給付
評価点（平均）	
	3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。		各サービスの概念の紹介がされているが、利用方法、サービス提供先等の情報は入手できない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	

6	4	3	4	6.4.3.4	提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3
6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。 ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報が必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.28	介護予防・生活支援サービス事業給付
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化（略） d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	2	事業の概念に関する説明がされているが、サービス提供先等の情報は入手できない。
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	



6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.29	小・中学校スポーツ開放事業	1013694
評価点（平均）		3

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6 2 1 6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6 5 2 4 6.5.2.4		ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	「ご利用にあたって」という見出しの中に、 2 事業の位置付け等が記載されており、冗長に感じられます。
6 3 4 4 6.3.4.4		類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6 4 2 2 6.4.2.2		各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6 5 2 8 6.5.2.8		システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3

No.30	七生丘陵企画展関連行事 新緑の丘陵散策事業
評価点（平均）	
3	

1	2	3	4	5	原則	説明	評価点数	準拠性評価（日野市HP上の健康増進関連事業 備考）
6	1	2	2	6.1.2.2		重要な情報は、そこに注意を向けられるように提示することが望ましい。 例1 重要な視覚情報は、ページの上部中央に表示する。	3	
6	4	3	1	6.4.3.1		ユーザになじみのある用語で情報を表現することが望ましい。	3	
6	3	4	6	6.3.4.6		使いやすさのために情報をグループ化して構造化する場合、グループ内の情報の項目数又はチャンク数は、ユーザが情報を瞬時に識別可能な範囲内の数に制限することが望ましい。ただし、ユーザが識別可能な数よりも多い場合には、サブグループを設けて、識別可能な項目数に収めることがある。 注記1 一般的に、ユーザは七つ以上の情報の項目又はチャンクを識別しづらい。情報が複雑になるにつれて、ユーザが識別可能な情報の項目数は減る。	3	
6	3	2	1	6.3.2.1		情報の内容を考慮して、最も適したアプローチに従って、一貫した方法で情報を構造化することが望ましい。 注記1 情報の構造化には、次の方法がある（JIS Z 8531-2の5.2.1を参照）。 a) タスクによる構造化 アプリケーションを用いて行うタスクの内容に合わせて、そのコンテンツ構造を決める。 b) 使用法に合わせた構造化 例えば、重要性、使用頻度、個々の観点などの側面から、ユーザの適用が予測される順にコンテンツ構造を配置する。 1) 重要性に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な重要性を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 2) 使用頻度に合わせた構造化 各コンテンツの相対的な使用頻度を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 3) 使用順序に合わせた構造化 各コンテンツの使用順序を推定し、その順序に基づいてコンテンツ構造を決める。 4) 慣習に合わせた構造化 コンテンツ構造を慣習に基づいて決める。慣習には、習得過程で説明、指導及び提示されたもの、又はその分野の研究者によって作られたものがある。 c) 時間順序による構造化 (略) d) 情報モデルによる構造化 情報モデル（例えば、分類、実体及び属性、オブジェクト又はオブジェクトのクラス）によってコンテンツ構造を決める。 1) 論理的グループによる構造化 主要な論理概念に基づいて、コンテンツをクラスター化する。この構造では、あるコンテンツ単位が何箇所かに重複して出現することもある。 2) アルファベット順による構造化 コンテンツを表す言葉のアルファベット順に、コンテンツを並べる。 3) 全般及び詳細の度合いによる構造化 一般的なものから特定のもの、又は特定のものから一般的なものの順になるようにコンテンツを配置する。	3	
6	4	2	1	6.4.2.1		必要な情報がそろっていることが望ましい（例えば、タスクを完遂するうえで適切な情報がすべて含まれている。）。	3	
6	3	4	1	6.3.4.1		情報は、互いの違いが認識できるグループとして提示することが望ましい。	3	
6	3	4	7	6.3.4.7		大量の情報を利用可能な場合、ユーザが現在行っているタスクに関連する内容に情報を限定して、情報のフィルタリングを行うことが望ましい。	3	
6	4	3	4	6.4.3.4		提示される情報に、曖昧さが無いことが望ましい。	3	

6	2	1	6.2.1	注意を逸らさないようにするための原則	ほかの情報によって妨げられることなく、必要な情報がユーザに知覚されるように提示されていれば、ユーザは注意を逸らさない。ユーザの視点の逸脱は、逸脱につながる事象及び情報過多の両方から生じる。ユーザが注意を逸らさないようにするための原則は、次の推奨事項を含む。 a) 注意を逸らすことを回避する b) 注意を逸らすことを最小限に抑える	3
6	5	2	4	6.5.2.4	ユーザの理解に役立たない冗長な情報は、最小化することが望ましい。	3
6	3	4	4	6.3.4.4	類似した情報項目を提示する際には、互いに物理的・時間的に近接させることが望ましい。	3
6	4	2	2	6.4.2.2	各情報項目は、お互いを明確に区別できることが望ましい。	3
6	5	2	8	6.5.2.8	システムは、個々のユーザのニーズに合わせて、提示する情報量を調整できるようにすることが望ましい。 注記 新規ユーザは、経験豊富なユーザには不要な追加の情報を必要とする（例えば、システムの使用法に関する指針など）場合がある。	3